



## 【特集】モザンビークでの テロ・紛争の地での支援活動

▲モザンビークの子どもたちと現地ディレクターでミュージシャンのナジャさん(「北九州ソング」PVより)

### ▼ 目次【VOL.147】

- 2 - 3 【特集】モザンビークでの  
テロ・紛争の地での支援活動
- 4 - 5 FUNN加盟団体活動レポート
- 6 FUNN活動レポート
- 7 NGO相談員報告・イベント情報

モザンビークはアフリカ南部に位置し、人口はおよそ3200万人、国土は日本のおよそ2倍の大きさのある国です。天然資源が豊富で、その資源を目的として争いや様々な動きが起こっています。今月号では2013年からモザンビークにて支援活動を行う「モザンビークのいのちをつなぐ会」代表の榎本恵さんに『モザンビークでのテロ・紛争の地での支援活動』と題して執筆いただきました。

特集記事は次のページから >>>

## エネルギー争奪戦の地となった モザンビーク北部

アフリカ南東部にあるモザンビーク共和国は、1975年にポルトガルから独立した。首都は南端のマプトで、モザンビークのいのちをつなぐ会（当会）の事務所は最北部カーボデルガド州の州都ペンバのスラム・ナティティ地区に位置する。当会では2013年の設立以来、スラムに住む地域住民との信頼関係を基盤に、2014年に建設した「ペンバ寺子屋」での教育活動、公衆衛生活動をはじめ水環境整備や環境保全活動、近年はテロ・紛争被災者支援活動にも注力している。

本年のゴールデンウィークには、岸田首相がエジプト、ガーナ、ケニア、そしてモザンビークを訪問した。モザンビーク訪問の最大の要はエネルギー問題だ。カーボデルガド州では2010年代にアフリカ最大規模の天然ガスが発見され、日本企業を含む先進国による開発が進行していた。過去形なのは、2017年にイスラム過激派のテロ・紛争が勃発し、さらに2019年からこれが激化し、天然ガス開発の拠点がある地域を武装勢力が占領し、天然ガスプロジェクトへの危険が迫り、フランスの企業が開発を中断したためである。そしてカーボデルガド州でのテロ・紛争問題は2021年によりやがて国際的な注目を集めるようになった。

加えて、今、ロシアのウクライナ侵攻により世界のエネルギー情勢は混迷を深めている。カーボデルガド州の天然ガスは一部産出に着手し、この地は各国のエネルギー供給の思惑が渦巻くガス争奪戦の場となっている。

## 守るのはガス。 なおざりにされる住民。

当初モザンビーク政府は、武装勢力への対抗策として、自国の軍力でのみ対応していた。しかし、攻撃は拡大する一方だったため、2021年にSADC(南部アフリカ開発共同体)及びルワンダ軍の力を借りることになる。欧米、日本からも多額の支援が届いているが、大きな目的は、天然ガス開発にある。むろん食糧支援や避難テントの開設も行われているが、ごくごく限られた人にしか支援が届いていないのが現状である。

治安も悪化する中、モザンビーク政府は天然ガスエリアの軍を増強するが、武装勢力に対応するため民兵が関与することを合法化した。住民は自分たちの命を自分たちで守らなければならない状況となっている。

さて、テロ・紛争の地で、住民がどのように武装勢力の動きを知るのかというとWhatsAppである（米国発のLINEのようなもの）。どこどこで攻撃があるぞ！というメッセージが一気に拡散されたり、イスラム過激派側で働いている知り合いとの会話内容の録音が転送されてくることもある。ちなみに無電化村でも携帯電話のアンテナは立っていて、携帯は中国製のソーラーパネルで充電している。

身を守るためにインターネットが大いに役立っている一方で、イスラム過激派は非常に巧みにインターネットを駆使し情報収集、情報発信、リクルート活動も精力的に行っている。

ガスも然り、カーボデルガド州ではルビー鉱山も大きな利益を生み出しているが、待遇のよい仕事は外国人か首都から来た人で占めており、継続的な排除、格差の深刻化、公共サービスの欠如、政府の腐敗という悪環境にある。現状への不満を抱え、生き難い不条理さへの怒りが爆発寸前の若者もいる。その中には武装勢力のスカウトに乗ってしまう人もいるのだ。

なお、当会は現地のスタッフや職人さん、青年有志を含め100人体制で活動を行なっている。彼らを危険にさらすリスクを考え、SNS上でカーボデルガド州でのテロ・紛争に関する記述はせず、必要機関へは直接ヒアリングで答えるようにしている。

## 平和の家の建設と、 小さな商いプロジェクト。

カーボデルガド州の州都ペンバには農村地区から数万人規模の避難民が船や徒歩で逃げてきている。当会では、避難民からの要望を受けて、平和の家（Casa de Paz）という避難施設を建設した。設備整備に関しては、FUNNからのご支援もいただき、真如苑からの支援を中古車の購入費用の一部に充てた。

他所にある避難テントで支援の対価として性的暴行を受け妊娠する女子もあり、当会の寺子屋や平和の家が駆け込み寺の役目も担っている。また当会の車は、スラムの救急車代わりになっており、24時間いつでも、急病人を病院へ搬送し、処方された薬を薬局で代わりに買うことも行っている。

しかし、薬局に必要な薬がないことも多々ある。

当会は現地で唯一、草の根活動を続ける団体であるが、教育、公衆衛生、食料配布、被災者支援と活動内容が広がる一方で、寄付が集まりにくく、資金源の8、9割を民間助成金に依存している。このままでは今後の資金難が目に見えるため、これからの10年を見据えて、スラム地区で現地の人たちを雇用できるパン屋や製粉屋、理容院や運送業など、小規模事業を興し、地域経済と支援を循環させる「小さな商いプロジェクト」に着手しようとしている。

世界のあちこちで、私たちの知らないテロ・紛争が発生している。資源開発と絡んだ紛争はアフリカでは顕著だろう。しかし、ニュースにはならない。支援の光の届かないエリアで、活力を生み出すには、雑草魂・希望・粘りが必要だ。小さいけれど、チカラもち！このスローガンを胸に、真つ当な活動を一步、一步確実に行なっていきたい。



▲寺子屋キッズ現在総勢300名。  
寺子屋ガールズ手作りのお菓子をみんなでいただきます。



▲寺子屋の子どもたちと、ナジャで制作した北九州ソングPV



▲寺子屋での毎日の給食や学費を支える、マンスリーサポーターを大募集中！

# 正会員団体 インタビュー

今月号ではFUNN加盟団体である、じゃっどの皆さまにFUNNでインターンをしてくれた島津さん・内田さんが、気になることをインタビューしてくれた内容を掲載いたします。  
じゃっどについて…NPO法人「じゃっど」は、1992年よりラオスの子どもたちの教育環境の向上を願い、日本（鹿児島県）および現地ラオスで活動をしている国際協力N G Oです。

## じゃっどの活動とは？

Q. じゃっどの活動をする上で、ラオス独自の信仰や慣習を崩さないために注意していることはなにかありますか？

A. 基本的に活動というものは「介入してしまう」ことであって、向こうの生活に何らかの影響を与えてしまうことであるということため、それを意識して「謙虚に進める」ということはいつも考えながら活動しています。指導をするというより、現地の方がやりたいことを手伝うというのがじゃっどの活動の特徴だと考えています。

Q. 今後コロナが明けてどのような活動内容を行っていくのかをお聞きしたいです。ほかの村にも活動範囲を広げていく予定はあるのでしょうか？

A. 一番はコロナ前と同じような活動に戻していく、ということです。地域に関しては現地の方から要請のあったところを優先していくということが、今後二～三年は中心になるのかなと考えています。

Q. ラオスにボランティアに行くにあたって、交通費や宿泊費などの活動資金はどのようにされているのでしょうか？

A. ポケットマネーで行くことが多いですけど、いただいた寄付を使用し、学生には半額補助をしています。現地のメンバーが来るときもなるべくこちらで寄付を集めて来日してもらおうようにしています。できるだけスタッフにお金を使わない、現地の活動に全部使うというのがポリシーです。



※写真はじゃっどHPより



Q. じゃっどの支援活動の継続において意識していることや、継続するための工夫はありますか？

A. 欲張らない、大きくしない、楽しく行うですね。気づいたら三十年活動しています。財源やリソースも限られているから、自分たちの力を考えて、「拡大よりは継続」を、「長く細く緩やかに」をモットーにやってきました。また、「熱い心と冷えた頭」も大事にしています。何か計画するときには、第三者の立場になってその計画を見直すということは大切にしています。

Q. 今ラオスで支援している地域があると思いますが、将来的にどのようななったらいいか、目指している理想があれば伺いたいです

A. じゃっどが始まった時は学校保健をやっていたので、ラオス全体に学校保健が行われることを目標にしていました。活動し始めて十何年目に教員養成カリキュラムというのかな、国のシステムの中に学校保健という言葉ができて、学校の先生たちが必ず学校保健を勉強するようになったんです。それまでは学校保健という言葉がなく、「学校の中に保健は必要ない、保健というのは医者がやること」という考え方だったんですけど、ラオスの中で学校保健が行われるようになったことで、当初の私たちの目標は達成されたのです。

当時は、じゃっどの目標は達成されたので引き上げようかという話もあったんですけど、みんなでラオスに行くのは楽しいし、まだ現場にきれいな水が届くまで時間がかかるし、ラオスにはまだ何にもない地域もあると聞いたので、細々と活動を継続していこうとしています。

## じゃっどの活動をしていて思うこと

Q. 現地での支援活動のなかで最も成果を感じたものと、逆にあまりうまくいかなかったことの二つをお聞きしたいです

A. ある時、青年海外協力隊から送られてきたスナップ写真に、じゃっどが作った衛生教育の教材が病院の受付のテレビで流れていて、それをいろいろなお母さんたちが見ているという光景が写っていました。どのような経緯で使用してくれたのかはわからないのですが、知らないところでこんなに自分たちの活動が広がっているのだと知り嬉しく感じました。

うまくいかなかったことは、栄養状態を改善するためにオイルを配ってみたら、次の日市場で売られているということがあったり、設置したトイレに鍵がかけられていて使用されていなかったりということがありました。トイレに関しては子供が使うと掃除が大変だからという理由だったようですが、それ以降、トイレを設置したときは、使い方までセットで教えるようしています。

Q. 活動を行う上で言葉や文化、宗教などの違いで困ったことや、配慮していることはありますか？

A. 現地で何か事業を始める際に、現地の方が私たちに遠慮をして、実はその村で同じような事業が行われていても「日本人がやりたいことだったらやって良いよ」と、村の現状を言わないということがあり、それが少し困ったことでした。配慮していることとしては、ラオスは宗教が主に仏教なので、お坊さんに対して失礼のないように（例えば黄色い服は現地の高貴なお坊さんの服なので、私たちはあまり着ていかにないようにするなど）行動しています。言葉に関しても、村の人たちとも話せるように少しはラオス語も覚え、ラオス語で名札を書いていくようにしています。

Q. じゃっどを設立してよかったことは何ですか？

A. 個人的に言えば、ラオスに親しい家族ができたということ。また、仕事関係しか知り合いや友達がいなかったのに、じゃっどの活動をすることで、年齢も違う仕事も違う方とも話す機会ができ、自分の社会性が広がり楽しい時間が過ごせているなと思います。



FUNN加盟団体活動レポート

## ウォルデン・ベロー講演会

### 「激動する世界と東アジアの将来2023—民衆のオルターナティブの視点から—」

5月13日、FUNN会員団体であるFNA（アジア開発銀行福岡フォーラム）の主催で表題の講演会が九州大学西新プラザにて開かれました。ベロー氏はフィリピンの活動家、社会学者で元議員でもあります。激動する世界と東アジアの状況を比・日・中・米の関係を中心に解説。フィリピンの米軍基地返還がされた背景や米国の対中政策の変遷と日本の軍事協力への圧力、比・越の現状など大変深い内容のものでした。最後は、政治の思惑を超えた民衆運動の盛り上がりへの期待でくぐられ、やはり「平和の担い手は市民」ということなのかと思いました。（報告：FUNN事務局）



▲講演会の様子（写真中央がベロー氏）

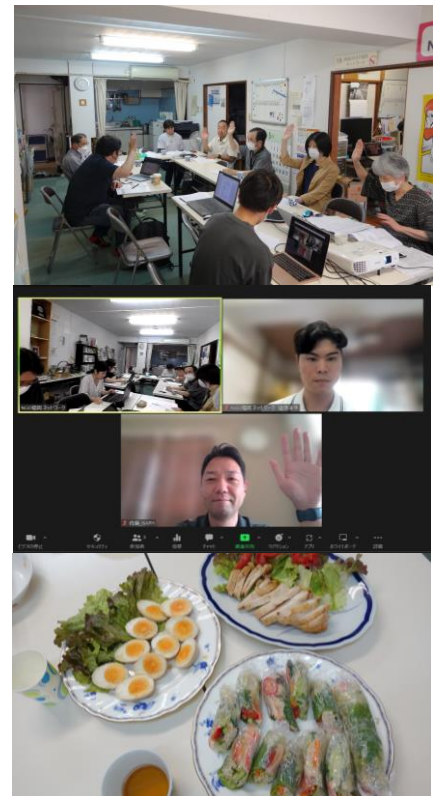


## 2023年度NGO福岡ネットワーク通常総会実施報告

2023年5月27日（土）14時から、2023年度通常総会を対面及びオンラインのハイブリット形式にて開催致しました。当日は今年度より新たにFUNNの正会員団体として加盟してくれた難民を助ける会の大室さんにもご出席いただき、合計6団体の方にご参加いただきました。

今年度はFUNNが設立30年の記念の年であるということもあり、今年度の30周年記念事業についての計画も議題に上げ、無事承認されました。30周年記念事業ではこれまでのFUNNの活動について振り返ることのできる様な機会を設けることができるように、これから頑張ってまいります。

総会終了後は、FUNNの副代表である原田理事より美味しいタイ料理を振る舞っていただき、久々に対面での交流の時間を設けることが出来ました。



▲写真上・中央：総会の様子  
写真下：原田理事によるタイ料理✧



## 西南学院大学共催「NGO合同説明会」開催報告

2023年6月21(水)15時半から、西南学院大学にてNGO合同説明会を開催いたしました。本イベントには当団体を含め7団体のNGOが参加し、72名の西南学院大学の学生が参加してくれました。

合同説明会の初めに、NPO法人ISAPHの山本氏より「国際協力と福岡のNGOについて」と題して、ご自身の協力隊やISAPHでの経験をお話いただきました。続いて各NGO団体より、それぞれの活動や学生の参加の方法について簡単にお話していただいた後、個別相談会にてそれぞれの団体について詳しく説明していただきました。

参加した学生からは「それぞれ異なる団体の話を聞くことが出来て、NGOにさらに興味を持った」「この話を通して、更に自分もこの機会に参加して、多くのことを経験したいと強く思った」といった感想をいただくことができました。



▲写真上：講演の様子  
写真下：個別相談の様子



# 【NGO相談】レポート

## 【令和5年度外務省NGO相談員九州ブロック担当を受託しました】

FUNNは外務省よりNGO活動環境整備支援事業の「令和5年度外務省NGO相談員」九州ブロック担当を受託しました。令和5年度も今まで培ってきたノウハウやネットワークを活かして多くの国際協力・国際理解に関するお悩みや勉強会のご要望にお答えしていきます。ぜひお気軽にお問合わせください！



### みやざきインターナショナルフェスタに参加しました！

5月21日に宮崎市で開催された「みやざきインターナショナルフェスタ」にブース出展させていただきました。国際協力に関する相談サービスを行った他、九州のNGO団体の紹介やフェアトレード商品の販売も行いました。

130名近くの方にブースにお越しいただき、「海外の人を助け方が現地に行くだけじゃなくて、募金やフェアトレード商品の購入、国内で参加できる活動があることが知れたので参加したい」という声をいただきました。



▲ブースでの相談対応の様子



## FUNN周辺 “おすすめ” イベント情報

### 【トゥマンハティふくおか】

#### インドネシア・カルチャー・デー2023

- ◆日時：7月20日（木）～25日（火）
- ※平日9:30～18:00 土・日9:30～20:00
- 最終日（25日）17:00まで
- ◆場所：福岡アジア美術館 交流ギャラリー（8階）
- ◆日時：7月22日（土）23日（日）11:00～16:00
- ◆参加費・入場料：無料
- ◆場所：福岡アジア美術館 あじびホール（8階）

#### 7月22・23日『水のアジア』作品コラボイベント

- ◆日時：7月22日（土）13:00／14:30（在日インドネシア留学生協会福岡支部）
- ◆日時：7月23日（日）13:00（NPO法人トゥマンハティふくおか「アングルンるん♪」）
- ※各10分程度のミニ演奏です。※時間は前後する可能性があります。
- ◆場所：福岡アジア美術館7階アジアギャラリー内

### 【PP2 1 ふくおか自由学校】

#### 2023年度企画 民衆のバラッドを奏でる ～暴力のない世界を創り出すために

【vol.4.韓国文学に学んだこと 朝鮮戦争休戦70年に思うこと】

- ◆日時：7月22日（土）14:00～16:00
- ◆会場：早良市民センター3F視聴覚室
- ◆定員：88人
- ◆参加費：一般1000円／学生500円

【vol.5.平和を考える島唄ライブ 民謡から感じる沖縄の光と影】

- ◆日時：8月5日（土）15:00～16:30
- ◆会場：南市民センター2F中練習室
- ◆定員：60人
- ◆参加費：一般1000円／学生500円

◆申込：要事前申込・下記へご連絡ください  
TEL：090-4357-7596（藤岡）080-6406-9251（大山）  
E-mail: ohyamayairochou@yahoo.co.jp  
※住所/氏名/電話番号/希望の講座を記入下さい

# 【FUNN応援募金のお願い】



NGO福岡ネットワーク（FUNN）では、九州地域に拠点を持つNGOとネットワークを作り、会員団体には組織基盤・活動実施能力向上のための研修・学習会、市民の方には各ネットワーク加盟団体の活動をお知らせする他、国際理解の普及、国際問題をともに考える講座や相談業務を行っております。

昨今の社会情勢により、NGO団体として活動がより厳しい状況となりつつあります。今後も継続的な活動を行うには皆さまからの暖かいご寄付が必要です。私共の活動にご賛同頂ける方はぜひ「FUNN応援募金」へご協力をお願いいたします。皆さまからの暖かい寄付を職員一同心よりお待ちしております。

## ☆☆ 寄付の振込先 ☆☆

### 【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク  
 カナ名：トクヒ エヌジーオーフクオカネットワーク  
 支店番号：208 （赤坂門支店）  
 口座番号：普通 1641291  
 ※メモ欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。

### 【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク  
 口座番号：01790-7-89478  
 ※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。  
 ※会費振込もこちらの口座まで



**FUNN会員募集中！** ・正会員（団体）¥10,000 ・賛助会員（企業）¥30,000

※金額は年会費です ・賛助会員（個人）¥6,000 ・通信会員（個人）¥3,000

会員に関する詳細はこちら→



## 編集後記

今年度も総会が無事終わり、色々な事業がスタートしております。何と言っても今年はFUNN30年のアニバーサリーイヤー！来月号は30周年記念号としていつもと違った内容をお届けします。ご期待下さい！（編集：多原）



## FUNN正会員団体リスト

- \* (特活) ISAPH
- \* アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- \* (特活) アジア女性センター
- \* (特活) 九州海外協力協会
- \* 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- \* 佐賀NGOネットワーク
- \* JVC九州ネットワーク
- \* (特活) じゃっど
- \* 認定NPO法人地球市民の会
- \* チベットを知る会
- \* NPO法人トゥマンハティふくおか
- \* 認定NPO法人難民を助ける会
- \* ネパール歯科医療協会(ADCN)
- \* 芭蕉繊維研究会
- \* (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- \* PP21ふくおか自由学校
- \* 福岡YMCA
- \* フレンズ国際ワークキャンプ九州
- \* (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- \* (一社)モザンビークのいのちをつなぐ会

## 【編集・発行】

**FUNN** 特定非営利活動法人  
 NGO福岡ネットワーク

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-6-1

小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ  
 最新情報はコチラから



\* 受付時間：火～土 13:00～18:00

\* 日・月・祝・・・休み



: 092-405-9870



: funn@ngofukuoka.net



: https://ngofukuoka.net/